

玉野市立学校適正規模化地域説明会（東兎中学校区②） 会議録（要旨）

■日 時 令和4年10月5日（水）19:00～20:30

■場 所 東兎公民館

■出席者 妹尾教育長、小崎次長、山内教育総務課長、的場学校教育課長

■参加者 21名（地域15 保護者6）

1 開会

教育長あいさつ

2 説明

教育総務課長説明

3 意見交換

参加者1：子どもは地域の宝だ。その子どもの成長を、我々地区や保護者は側面から協力しなければならないのはもちろんだが、教育委員会や市の方にも、当然その責務があると思う。

例えば鉾立小と胸上小が一緒になった場合に、どうすれば登校拒否やいじめの問題ができるだけ起こらないようにできるか、子どもが喜んで学校に行くようにできるか、考えていかなければならないと思う。

学教課長：確かに学校の大きな課題に、いじめ、不登校がある。

不登校は、原因や理由になかなか明確なものがない。子ども一人ひとりに何かあることもあれば、家庭であったり、本人を取り巻く環境であったり、いろいろなものが原因となっている。学校の小規模大規模にかかわらず、子どもが楽しく安心して学校に行けるように、全教職員、全学校がしっかり取り組んでいる。統廃合で児童数生徒数が増えた場合にどうなのかだが、当然学校は児童生徒数に関わらず対応していく。いじめについても同様で、しっかり一人ひとりを見ながらの対応になると思う。

参加者2：いま統合の話があったが、小学校の統合の時期であるとか、最終的に山田、後閑、鉾立、胸上小学校、それから山田、東兎中学校の統合される時期は予測しているか。

教総課長：現時点で具体的に決まっているわけではない。規模感も検討委員会で協議することになるので、2校が一緒になるのか、4校が一緒になるのか、あるいは全て残るのか、今後の検討の中で話が進んでいくことになる。

ただ、教育委員会としては、複式は解消したいという思いがあって、そこが今回の適正規模化の議論のスタートとなっている。説明会でいただいたいろいろなご意見も踏まえながら、今後検討をお願いしたいと考えている。

参加者2：児童生徒数を令和28年まで推計しているが、これはもう人口が1/2以下になるという想定か。1/3くらいか。

教総課長：この推計は、ここ5年間で、5歳区切りの人数がどれくらい動いたかを基に、今後の推移を予測するものだ。出産年齢の女性が何人くらいいて、出生率がどれくら

いで、5年後には出産年齢の女性が何人くらいになって、子どもが何人くらい生まれて、という計算を繰り返していく。その手法によれば、このような推移が想定される。

参加者1：複式学級だから学力が落ちるということは決してない。後閑小の子も石島分校の子も、なかなか成績も良いし、友だち関係も良いようだ。

少し話しが逸れるが、複式でやっていく場合、国や県の予算はどうなるか。余って損するようなことがあってもいけない。

また、3人、5人ならスクールバスでなくシータクでという説明もあったが、もう少し具体的な案があれば教えてほしい。

教総課長：国からの交付税は、学校数、学級数、児童生徒数を元に計算をしていく。その数字を元に景気や物価が影響して決まるので、(複式だからといって)100貫えるはずのものが80しか貰えないということにはならない。

次に、仮に、統廃合によって通学の補助が必要となったエリアに住む児童が5人であれば、シータク1台で送り迎えができる。現時点で具体的な時間などは言えないが、そういう活用方法が考えられる。

参加者3：財政難で学校を減らすように考えられるが、学校が減れば教職員数はだいぶ減るだろう。学校が1/3くらいになるのだから、かなりの金額が浮くと思う。そういうことも計算しているか。

教総課長：まず、学校の先生の手数は学級数で決まってくる。その先生の雇用主は岡山県で、岡山県が給料を払っている。仮に先生の手数が半分になれば、岡山県の支出が半分になる。〇〇支援員や〇〇サポーター、複式を解消するための非常勤講師は玉野市が雇用しているが、減少数の想定がつきにくいので計算に入れていない。

適正規模化計画(草案)では、用務員と図書司書については計算に含めている。

参加者3：学校数が1/3くらいになるのに、教職員がほとんど減らないのはおかしくないか。

教総課長：教職員は減るが、給料を払っているのが玉野市ではないので、玉野市の支出が減るということではない。

参加者3：他市でもこのような協議を一生懸命しているか。

教総課長：県内で検討委員会を立ち上げてというのはあまり聞いていない。ただ全国的に見れば割とある話かと思う。

参加者3：何も玉野市が率先してやる必要はないのではないか。

教総課長：先々児童生徒数の減少が想定されている以上は、10年後、20年後を見据えて、何らかの手を打っておくことは必要と思う。検討の結果、時期尚早となれば統合は先になると思うが、考えることは大切だと思う。

参加者3：孫が2人帰ってくるので聞きに来たが、こんなことばかりになっていると、帰ろうかという者も帰ってこなくなると思う。条件が悪くなれば、余計に減るのではないか。だから増やすことも考えないといけない。予算が予算がというが、もう少し良い方向に向かうことも考えてほしいがどうか。

教総課長：人口増には市全体で取り組んでいる。10年も20年も前から取り組んではいるが、日本全体で人口が減り少子化も進んでいる。また、全国で人口増、移住定住の取組を進めているので、なかなか目に見えるような形にはなっていない。そのような状況もあり、先を見据えた対策は取っていかねばならない。

学教課長：補足する。県内の適正規模化の状況だが、検討委員会などの形を取るかは自治体によるが、適正規模化や統廃合の検討はいくつかの自治体で進んでいる。令和5、6、7年度あたりから、統廃合も含めて学校のあり方が変わってくると思う。

参加者4：この村に小学校も中学校も無くなると淋しい。先ほど言われたように、家族が帰ってくることもあると思うが、学校がないところへは帰られないのではないか。

学校、子どもを中心に、住民、保護者のコミュニケーションが濃くなると思うが、鉾立に学校がなくなり、一山越えた隣の胸上に子どもが行くとなると、コミュニケーションが薄れてくると思う。その点で統廃合の方向性はどうかと思う。少子化は全国的な問題で、よそはどうなのか。

それから、小学校と中学校は違うと思う。発達段階が違うし、教育の目標も異なる。中学になると、大勢の中で自分の意見を言えたり、広い考えを持ったりしてほしいし、切磋琢磨、競争もいる。将来に向けての進学も考えなければならない。

小学校の場合は、小規模がとても恵まれていて、一人の児童を、担任の先生は前から後ろからも、右からも左からも、中身もすべてオールラウンドで観察できる。中学になったら自立してしごいて、進学の話も出てくるし、逞しくなってほしいが、小はやはり人間形成、中学はそれに学力などが加わってくる。弱々しい優しいだけの子では役に立たないので、国際的にも役立つ人間になってほしい、視野の広い子になってほしいが、小学校はそこまで望まない。生活の基礎、基本をしっかりと身につけ、人格をしっかり認められ、愛されて、大切に育ててもらうことが必要と思う。だから小と中はちょっとニュアンスが違ってくると思う。

個性豊かな地域、個性豊かな子どもの育成、そういうことも無視しないで、統計学的な統廃合はやめてほしい。予算がたくさんいる中で大変だと思うが、教育の中身は何が大切かという視点も大切にしてほしい。

教総課長：小学校と中学校は別というのは、他の説明会場でも再三指摘をいただいている。どれくらいの規模を目指していくか、小学校と中学校を一律に考える必要はないと思うので、柔軟な検討を進めたい。

参加者5：数字で見ると凄く減少しているが、全人口に対してどのくらいの割合か。また、バスの対象は4km以上で番田のバス停からとのことだが、現実に番田より向こうの登校班が、距離が長くて凄く困っている。班を分けたりして本当に苦労している。資料を見るとすごく遠い。子どもたちは暑い中無事に歩けるか。4km歩くのに子どもの足ではどのくらいかかるか。そこに誰がついていくのか。親が不安だ。遠いから親が車で連れていくことも出てくると思う。そうすると益々親の負担が大きくなって、私たちは仕事にも出られない。そのような中で、人口はあのグラフのとおりになってしまう。

だけど、学校が近くにあるだけで、おじいちゃんおばあちゃんが付いて行ってくれたり、待ってくれたりして、子育ても何とかなる状況だ。私が来たときは(市は)すごく子育てに力を入れていて、地域で遊ばせてくれるところとか、保育園の一時預かりの券をもらったこともある。母親には凄くありがたい環境だと思っていたが、どこかの時点で、都会と同じ制度にするとなくなって凄く困った。小学校はそれぞれのところに絶対にあってほしいと思う。

教総課長：人口について。令和2年の数字で小中学生が3,563人、今現在の玉野市の人口

が5万6千人ちょっと(註:9/30現在55,987人)なので、7パーセントくらい(註:6.4%)になる。

参加者5:いま玉野市が実施している、母親に対するサポートはどのようなものがあるか。
増える働きとは具体的に何をしているか。

教育次長:健康増進課で、例えば産前産後のケアや0歳児の全戸訪問、あとは幼稚園保育園に待機児童がほとんどないなど、母親への支援等々については、玉野市はやっている状況だと思っている。

参加者6:子どもは人口増加と関わってくる部分と思う。その子どもを本当に増やそうとか、結局人口は市外から来てもらわないと増えないと思うが、先ほど言われていたように帰って来させようとか、そういう時に玉野市の良さ、教育に対する考えの良さとが全然見えてこない。何年か前に小中一貫校のような話が出たが、どこに消えたのかと思う。

西大寺の南で、何校かが一つになって今年から(義務教育学校が)できた。その地区の人に話を聞くと、結局子どもの数よりも隣の西大寺へ、この辺に例えれば、「東児中、鉾立小に通わせたくなくて、宇野中の方が魅力的だから親が連れて行っていた」ような現状があるようだ。

玉野市の教育も、外国人の先生が来て英語を教えていたのもなくなっているし、教育の良さが見えてこない。この合併の機会に合わせて考えているとは思いますが、表に出してアピールしてもらえたらと思う。

学教課長:2年ほど前に「未来の学校づくり」として学校のあり方について話をした。

玉野市では、同じ中学校区の小学校と中学校が連携して9年間を見越して系統立てた教育をする、中学校区一貫教育に特に力を入れて取り組んでいる。

今日は適正規模化の話をしているが、これとは別に学校教育のあり方の部分を、学校教育課を中心に検討したり研究したりしている。先ほど話のあった義務教育学校もあり方の一つとして研究しており、話題として挙げたこともある。今年度、県内で山南学園が開設されたので、しっかり研究しながら考えていく。

ただ先ほど言ったとおり、玉野市は中学校区一貫教育の充実を進めていて、特に東児中学校区はモデル校として取り組んでいる。

玉野市が目指す教育についても、検討研究を進めしっかり発信していきたい。

参加者7:今年の11月に子が生まれるが、その子が小学校に通う頃には児童数が少なくなる。まだ子育てもしていないが、私個人としては、やはりある程度の人数がいるのが理想だ。中学校ももちろん、大勢いる学校が理想と思うが、先ほどから出ている「地域には小学校が必要だ」「子どもが地域とコミュニケーションをとれるのが一番いい」という意見は、私も鉾立小学校で育ったので身に染みて理解している。

ただ、今後の小学校や中学校の運営が、いま話している内容でよくなるのかというのがあって、統合するとか、小中一貫にするとか、もう少し具体的なイメージが持てるようにしてほしい。人口減少でこんな感じです、何年先になるかわかりませんでは全然イメージを持ってないので、職員の体制はこう、通学はシートクでこうといった具体的な説明が、先ほど話をされた共働きの子育て家庭では一番重要な部分だと思う。

あとは予算だが、学校が少なくなるのであれば、もちろん予算(の削減分)は出

てくるであろうし、例えば新しい小学校を地区の真ん中に作るとか、そういうことも考えてほしい。今あるものを使っていると、また修繕の費用がかかると思うので、もう少し思い切ったことをしてもいいと思う。鉾立小学校の耐震をしないとか、するとかで何年も揉めているが、それであれば新しいものを作って、もっと良い教育環境を作ってあげればと思う。

これから子育てをする世代のためにも、教育委員会でしっかり考えてもらって、実例があればイメージしやすいので、全国でこういう規模の小学校がこうしている、こういう体制になっているなどを示してえたらと思う。

教総課長：今は具体を固めていく過程にある。検討委員会から答申が出て、具体的な案を固めた後は、詰めた話ができると思う。

せっくなので新しいものを建てるというご意見はもっともと思う。我々としても実現できればベストだと思うので、こういった意見があったことを、検討委員会はもちろん、市長にも報告をしていきたいと思う。

参加者 8：グラフや推定の人数は、今現在分かる範囲の人数なので、帰ってくる人の予測は入っていないと思った。維持費のグラフは、今後 2.2 倍の費用がかかることは分かったが、今後と同じくらい過去に遡った年数で考えないと対比できないのではないかな。資料のグラフで言うと、過去の経費の茶色の部分が 5 年間であれだけで、今後は長寿命化改修の紫の部分が多いわけだが、かつてあちこち建て直した時期もあったのではないかな。大規模な改修をしたときの数字があればまた違うのではないかな。まるでマジックにかかっているように見えて、人数がどんどん減るのも、玉野市が暗くなるキャンペーンでもしているのかというくらいで、かつて育児がしやすいから帰っておいでと言いやすかったのが、こういう空気になってから、言えなくなった。

少し話が変わるが、学校と保護者と地域の連携がすごくできていて、上の世代が登校班に付いてくれるのが当たり前の環境に思っているが、範囲が広がるとスクールガードがどこまでできるか、保護者がどうできるか、いろんな難しい問題が、いま見えてない（統廃合の）デメリットが出てくるのではないかなと思う。岡山市の内山下では、お祭りができなくなったとか、いろいろ不都合が生じたという話を聞く。教育とは違ってくるが、地域で難しい問題が生じてくるのは、いろんなことを学んでから取り組んでいけたらと思う。

それから、1 回目も 2 回目も、これだけの人しか聞いていなくて大丈夫かというのが大きな不安だ。他地区でも、この説明会にどれだけの保護者・地域の人に来て、どれだけの人がこの状況を理解しているだろうか。

また、検討委員会の人数がとても少なかったり、有識者、コミュニティの代表が各 1 人だったりというのは、なぜ 1 人なのか、どうやって決められるのか、関わる人の数がとても少ないように思えて、とても心配だ。

これをみんなに知ってもらっておかないと、ホームページや広報たまのでも聞いたが、もっときちんと周知して、皆で考えてもらうようにしておかなくて大丈夫かと心配だ。

教総課長：帰ってくる人は想定に入っている。例えば 0 歳から 4 歳までの 5 学年が、5 年後には 5 歳から 9 歳になるが、その間に人数が増えていけば、「この年代の子どもが転入してくる傾向がある」として（係数に）反映される。ただ、小学校であれば令和 9

年度までは、各地区とも転入転出がない前提でグラフを作成しているので、転入傾向があっても反映させていない。令和10年度以降は反映しているが、(出生数の減少がより大きく、転入傾向があったとしても)引き続き減少する傾向にあると推測される。

次に、経費のグラフで過去5年しか遡っていないのは、今の玉野市の財力でどの程度負担できるかを見るためだ。遡りすぎると今現在の体力でなくなる。どこまで遡るのが適切かは議論があると思うが、(想定される経費を)いま玉野市が教育にかけているお金と比較するためのグラフと理解してほしい。

あと、検討委員会でコミュニティの代表が1人で少ないという指摘だが、保護者の代表が7人いるし、公募委員も2人いる。これらの方々は市内在住で地域の方でもある。15人中12人は玉野市民なので、決して地域の声が反映されないというものではないと考えている。

参加者8：保護者7人も少ないと思う。中学校区から1人というのも、中学校、小学校一人ひとりいても構わないと思う。

教総課長：検討委員会全体で15人が適正かという趣旨の意見と思うが、他市と比べて決して少ないわけではない。私が調べた限りだが、確かに30人弱の自治体もあった。一方で10人程度のところもあって、概ね15人前後、20人を超えたら多いという感じだ。また、保護者の代表が中学校区から1人ずついるのは、他に比べて多い方だと思う。その中で、バランスをとって15人に落ち着いたというのが経緯だ。

この人数が多いか少ないかは、いろいろご意見があると思う。

参加者8：玉野市は人口が増える取組をしていると思うが、教育委員会は、他部署と連携した子どもの人数が増える取組を何かしているか。

教総課長：具体的に連携してというのではないと思うが、会議等で発言する場はある。人口増には、玉野市全体で取り組んでいるとお考えいただきたい。

参加者9：後閑、鉾立保育園の園長をしていた。自分は西田井地に住んでいたが、子どももおじいちゃんおばあちゃんに任せるし、こちらに帰って来て地域性の良さを凄く感じたし、子どもも本当に素直で、保育士の方が心洗われるくらいだった。地域の方もとても協力的で、こういうところで生活できるのは凄くいいよなど、よそから来ている人もいた。親戚がいるわけでもないのに、この地域を選んで家を建てた人もいた。

統合などもいろいろ計画してくれているが、先ほど意見があったように、私も新しく学校を(建てればよいと思う)。平等性というか、修繕などもちょっと遅れているように感じるので、やはり子どもがベストな環境の中で育って(いけるか)という部分を皆さんも心配している。なので、計画を立てる時にはそういう気持ちに配慮してほしい。

私も保育をしてきたので、教師や先生の大変さはよく分かる。人数が少ないと、きめ細かい配慮はできるが見えすぎることもある。やはり切磋琢磨にはある程度の人数で、小学生でも、先生方がある程度子どもに任せられる、子どもたちが切磋琢磨できるような環境を作るような、教師の勉強もしてもらいたいと思う。

先生方は大変だ。家族が問題を抱えていたり、子どもも問題を持ったり、いろんな子がいる。1クラスの人数がいくら少なくとも難しいところはあると思うが、そ

の時に、予算の話もあったが、この人数に対して教師は何人というのではなくて、その状況を良く把握して、教師に補助を付けるなどの体制もよく考えてもらいたい。その点について、これからの計画の中にしっかり入れ込んでほしい。

4 閉会